



913-36-913 6

profile

やはた(たにくち)あやこ／熊本高校、お茶の水女子大学家政学部家庭経営学科卒業、同大学院修士課程修了。1991年4月より熊本県立鹿本農業高校教諭、1993年4月より尚綱短期大学家政科助手、1995年同講師として勤務。1996年6月より熊本大学教育学部講師、助教授を経て2007年4月より現職。2009年より熊本大学男女共同参画コーディネーターを務める。小中学校の家庭科授業研究会講師、その他地域の役職も数多く務める。中学1年生の双子の母。

Role Model
28

“生きた”家政学で、よりよい社会と未来をデザインする

八幡(谷口) 彩子 熊本大学教育学部准教授

家政学部
修士課程
高校教員
短大教員
大学教員

大学時代のサークル活動では「合唱団」に所属
今でも歌やピアノは大好き

One day

6:00	起床→朝食準備・洗濯
6:45	朝食
8:45	就業
	講義・研究指導・論文・会議
	学外の非常勤講師も多い
17:00	終業→夕食の買い出し (夕食の支度は夫と分担)
19:00	夕食・入浴後に仕事も…
23:00	就寝



Ayako YAHATA-TANIGUCHI

生活科学系(家政学)

“科学”としての家政学との出会い

高校の時、進路指導の勧めでお茶の水女子大学家政学部へと進み、家庭経営学を専攻しました。「家政学」とは、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境との相互作用について、自然・社会・人文の諸科学を基盤にして研究する「実践的综合科学」です。なかでも私は主に、明治初期における翻訳家政書の研究、東京女子高等師範学校卒業生における家政学の専門職意識の形成過程に関する研究、そして家庭科(家庭経営学分野を中心とした)の教材開発などに携わっています。

大学受験の際、実はマークシート式のテストが苦手だったので、大学入試センター試験では思うような点がとれなかったのです。そこでセンター試験の配点が少なく、「何を研究してもよい学部・学科」と受験雑誌『蛍雪時代』で紹介されていたお茶の水女子大学家政学部家庭経営学科を受験しました。それが家政学との出会いですが、これが実に運命だったように思います。

学んでみたところ本当に面白くて、私には非常に合っている学問でした。

大学3年の時に、学外から非常勤講師としてお茶の水女子大学に来られていた亀高京子先生との出会いもまた人生の大きな岐路となりました。



家政学の歴史が解明されていく過程は、まるで推理小説のような面白さと興味をかきたてられました。「私もこうした研究をやりたい!」と強く思うようになったと同時に、亀高先生の生き方と研究スタイルは、それからの私のロールモデルとなったのです。

未来を担う子どもたちを育てることが使命

博士号を取得後、結婚と出産を経験しましたが、妊娠中のひどいつわりや出産後の体調不良など、思うように働けない状態になりました。その後も育児をしながら働きましたが、そこには常に、職場で出会った夫の協力がありました。研究面でも、文学部出身の夫から学ぶところもあり、まさに「生きた家政学」を実践中です。

家庭科の授業をしている時、子どもたちのイキイキと楽しんでいる様子が伝わってくると「この仕事をやってよかったな」と実感します。家庭科を楽しんでいる子どもたちはきっと、将来的に「暮らしやすい家庭生活・社会生活」を実現してくれるだろうという希望と期待を感じさせてくれるからです。

ワークライフバランスの実現や、イクメン(育児をする男性)を多く育てることも、家庭科が取り組むべき課題。未来のよりよい生活の担い手となる子どもたちをたくさん育てられる家庭科の教員を、全力で養成したいと思っています。